

2017年7月3日

No.284

又市征治 国政だより

又市征治事務所

発行責任者 松井 研一朗

富山市下新町 8-16

TEL 076-441-0800

HP: www.s-mataichi.com

5月10日、ODA特別委では参議院ODA調査派遣団の報告を受けました。又市征治議員は、ミャンマーの情勢について質疑を行いました。

アウン・サン・スー・チー国家顧問と軍部の関係について

又市議員は、昨年、アウン・サン・スー・チー氏が率いる国民民主連盟の政権が成立したにもかかわらず、軍部が行った憲法改正によって彼女は大統領になれなくなっているが、彼女と軍部の関係は現在、どのようになっているか質しました。

山田外務省国際協力局長は、アウン・サン・スー・チー氏は大統領にこそ就任していないが、事実上もっとも強い影響力をもっていること、そして彼女は、きわめて優れた指導力を発揮し、大きな問題なく国家を運営していると答弁しました。

調査団に参加した岩井議員は、民主化が進んでいること、首都が変わり、非常に動きの大きな国であり、これからの成長が期待できるとの印象をもったと答弁しました。

ミャンマーと中国の関係について

次に又市議員は、今月、中国で「シルクロード構想・一帯一路」に関する首脳会議が開催されるが、参加者のなかにプーチン・ロシア大統領、ドゥテルテ・フィリピン大統領とともにアウン・サン・スー・チー氏がいる。軍政時代には中国との関係は緊密であったが国民民主連盟政権下での関係は、どうなっているかを外務省に見解を求めました。

山田局長は、ミャンマー・中国間は、経済面では非常に深い関係にあるが、政治面ではポジティブな面と、歴史的には少数民族問題に起因する非常に微妙な面があるが、ミャンマーは非同盟中立を維持し、中国とは一定の関係を維持していくのではないかと答弁しました。



ミャンマーにはどのようなODAが必要か

最後に又市議員は、今後のミャンマーに対して日本はどのような政府開発援助を行うべきか、調査団とJICA(国際協力機構)に見解を求めました。

岩井議員は、中国とのバランスも微妙であるが、国民は親日的な面もあるので、中国との関係も配慮しながら日本の良さを活かした支援を行っていくべきだと答えました。

北岡JICA理事長は、長い軍政下で経済開発が進んでいないことを指摘し、交通網、産業基盤、農業支援の必要性を強調しました。具体的にはヤンゴン市内の交通、マンダレーに行く交通網、ティラワにおける工業団地について言及しました。また地方とのバランスも大事であり、一つのパッケージとして支援していくとの意向が示されました。同時に、人材育成の重要性も強調しました。